

令和3年度 二上小学校研究構想図

学校教育目標

- あ 明るい子
- い 命をだいじにする子
- さ 最後までやりぬく子
- つ 強い心と体をもつ子

児童の実態

- ・理科・生活科には興味・関心が高い傾向にある。
- ・自ら進んで発言する意欲が高い児童が多い。
- ・自分の力で粘り強く取り組もうとする児童が多い。
- ・学習内容の定着について課題がみられる。
- ・実験をする際に予想や仮説を立てることに苦手意識がある。
- ・友達の見聞を聞いて考えたり、自分の意見と比べたりすることに苦手意識がある。

研究主題

「やってみよう」「考えてみよう」主体的に学ぶ二上っ子の育成
～児童自身の気づきや発見を大切にして、学びを深める指導の工夫～

各学年の目指す児童像

低学年		中学年		高学年		若草
1年生 具体的な活動や体験を通して、気付いたことや発見したことを自分なりの言葉で表現する児童	2年生 具体的な活動や体験を通して、気付いたことや発見したことを自分なりの言葉で伝え合う児童	3年生 気づきを基に「なぜだろう」と興味をもって考えて問題解決に取り組み、学びを獲得する児童	4年生 「なぜだろう」「なぜなら」と自分なりの考えをもって、問題解決に取り組み、学びを生活に生かすことができる児童	5年生 計画的に問題解決に取り組み、学びを深める児童	6年生 気づきや発見を既習事項や生体験と関連付けて、科学的な根拠を基に伝え合う児童	身の回りの具体的な活動や体験を通して、自分の生活との関わりについて気付くことができる児童

研究仮説

自然事象との出会いの中で、児童が気付いたり発見したりすることを大切にし、それを基に学習を進めていくことで、実験や観察の際にも新たな発見や気づきが生まれる。その結果、児童同士の学び合いも活性化し、学びが深まるであろう。

児童に身に付けさせたい力

- ・学習を自分事として考え、主体的に取り組む力
- ・学んだことを活用して様々な問題を解決する力
- ・自分の思いや意見を相手に正確に伝える力
- ・教科の特性を踏まえた確かな学力

具体的な手立て

- ・事象提示、教材の工夫
- ・問題解決学習の流れを意識させる掲示物
- ・児童同士の関わり合い活動の充実
- ・児童の発言、意見を大切にする授業展開